



しらやま

白山小学校だより No.32

令和2年11月30日

第2回しらやま家庭・地域・学校協議会



19日(木)、第2回のしらやま家庭・地域・学校協議会が白山小学校と武生第五中学校の合同で開催されました。この会は、子どもたちの成長や教育に関わる課題について協議し、地域全体の教育力をより向上させ、地域に開かれた学校づくりをめざしていくものです。はじめに小学校と中学校からこれまでの教育活動について報告をしました。その後の意見交換では、次の点が話題になりました。

- ・小学校で今年度からスタートしたプログラミング学習について
- ・オンライン学習や今後のICT環境について
- ・一人一人の個性を伸ばす教育について
- ・児童生徒の登下校時の安全確保について

この会でいただいた貴重なご意見は、これからの教育活動に生かしていきます。

◇◇◇ スクールバスのお披露目式 ◇◇◇

24日(火)、下校時に合わせて新しいスクールバスのお披露目式が行われました。車体には、越前市が推進している「コウノトリが舞う里づくり」のイメージキャラクターの「えっちゃん」や菊の花が描かれています。車庫から出て来た新しいバスを見るなり、子どもたちは歓声を上げて大喜び。利用する子どもたちは、このバスに乗って学校に通うのが楽しくなるでしょうし、これからの学校生活に気持ちも乗ってくることでしょう。



越前市 コウノトリバス発進!

白山小、王子保小

白山地区ではかつて、くちほしの折れたコウノトリが飛来し、当時の白山小児童や地域住民らが保護。今年6〜7月には地区内の人工巣塔で、ひな4羽が巣立った。王子保地区では2010年に1羽が長期滞在するなど、両地区はコウノトリと深い関わりがある。

更新された車両には、コウノトリのイメージキャラクター「えっちゃん」と市の花の菊のイラストが描かれている。29人乗りで、両校に1台ずつ配置される。

白山小で開かれたお披露目式には、24年生の児童27人が参加。車庫から出てきたバスを見て、児童は「かわいい」と歓声を上げた。北川喜教校長は「自慢したくなるようなバス。大事に使おう」と子どもたちに呼びかけた。毎朝スクールバスを使うという加藤繪理理さん(2年)は「えっちゃんとお花がかわいい。乗るのが楽しみ」と話していた。

両校は分校との統合時にスクールバスを導入。老朽化が進んでいたため地元住民から更新の要望が上がっていた。白山小は30人、王子保小は19人がスクールバスを利用する。(守長泰生佳)